

## 特集 長洲町の教育の「イマ」

現在、少子化の進展や核家族化による家族形態の変化により、子どもたちの生活環境は大きく変化しています。

また、情報技術の進展による国際化が進み、社会が急速な変化を遂げている中、時代に応じた教育の重要性は、ますます高まってきています。

このような現状において何が必要とされているのか。  
いま、長洲町が取り組んでいる教育に関する事業について紹介します。



### 長洲町の教育の 主な取り組み

1. 確かな学力の育成
  - ・ 学校図書充実
  - ・ 図書充実を図り、子どもたちの表現力・想像力の向上を目指します。
  - ・ 英語教育の実施
  - ・ 幼児期から遊びを通して英語を学ぶとともに、外国語指導助手（ALT）を2人配置して国際理解を深め、コミュニケーション能力を育成します。
  - ・ また、文部科学大臣の英語教育に関する「教育課程特例校」の指定を受け、本年度から、町内4小学校全学年での英語教育を実施します。
  - ・ ながす寺子屋学習塾の開催
  - ・ 児童の基礎学力向上や家庭での学習習慣の定着を図るため、放課後に地域の公民館で学習会を開催しています。
2. 豊かな心の育成
  - ・ 夢の教室の実施
  - ・ 小学5年生と中学2年生を対象に、第一線で活躍したアスリート（夢先生）による授業を実施し、子どもたちの健全育成を図っています。
3. 教育環境の充実
  - ・ 全小中学校の校舎および体育館の耐震化を実施
  - ・ 全小中学校普通教室にエアコンを整備
  - ・ 全小中学校普通教室に地中熱システムを導入
  - ・ 校舎、体育館などのトイレを洋式化
4. その他
  - ・ 長洲町総合教育会議を設置して、町と教育委員会がいじめや不登校、子どもの貧困対策、学校の危機管理などについて連携して議論し、教育環境の充実を図っています。

## 地域が子育てをサポート

～地域への愛着を高める～

学習を支援している石本講師は「子どもたちは、開始したときよりも積極的に学習に取り組むようになっていて、着実に学力が身についています」と話し、「小さな積み重ねが、子どもたちの学習習慣の改善と確かな学力につながるのだから、丁寧な指導していきたいです」とこれまでの取り組みに自信を見せています。

この「ながす寺子屋学習塾」は、本年度から全小学校区で実施していきます。

### 長洲ふるさと塾

「夏休みと冬休みに野鳥の観察学習を行いました。参加した子どもたちは、初めて知ることに胸をワクワクさせながら、真剣に取り組んでいました。これからは、子どもたちに町の豊かな自然や野鳥をはじめとする生き物に少しでも関心を持ってもらい、命の大切さや感動を伝えることができると思っています。そして、この『ふるさと塾』でさまざまな体験に挑戦し、視野を広げてもらいたい」と話す、日本野鳥の会熊本支部の辻統さん。



▲有明海干潟の野鳥について説明を聞く子どもたち

### ながす寺子屋学習塾

昨年の6月から、清源寺区の公民館で毎週木曜日の放課後に、小学校高学年（4年生～6年生）を対象として「ながす寺子屋学習塾」を開催しています。

これは、さらなる学力の向上や学習習慣が十分に身につけていない児童への学習支援を図るため、町が地域の人やNPO団体と連携して行っているものです。



▲先生から教えてもらう子どもたち



▲地域婦人会の皆さんと一緒に料理づくり

長洲ふるさと塾は、郷土愛溢れる児童の育成を目的に、夏休みや冬休みの期間中、各小学校区の地域の公民館で児童を対象に開催しているもので、地域の皆さんの協力によりさまざまな体験や活動を行っています。

昨年は、地域婦人会や文化活動などを行っている地域の皆さんと協力し「学ぶ・遊ぶ・育む」をテーマに、野鳥の観察や科学遊び、木工車や郷土料理づくりなどを行いました。

# INTERVIEW

園児の英語教育の取り組みや変化について、幼児英語教育を取り入れている長洲幼稚園の吉村園長と長洲こどもの海保育園の村上園長に話を聞きました！

## 長洲幼稚園 吉村園長

フランク先生は、子どもたちの目線に合わせて丁寧に教えられるので、みんな安心して楽しく学んでいます。大人は、英語での日常会話に戸惑うことも多いのですが、子どもたちは覚えたての英語で自然にフランク先生と会話し、質問にもしっかり答えていて驚かされます。今では、園の先生たちも保育の中で子どもたちと英語を使ったコミュニケーションをとっています。

柔軟な発想をもつ幼児期から異文化に触れることで、子どもたちの可能性をさらに伸ばしていくことができればと思います。



## 長洲こどもの海保育園 村上園長

子どもたちは、英語の歌を歌うなど、楽しみながら学んでいます。保護者の皆さんからは「家でも保育園で学んだ英語をジェスチャー付きで見せてくれる」と聞いています。

まだ開始したばかりですが、当初に比べて英語に対する抵抗が確実になくなってきたのがわかります。

今後も、継続していけば、子どもたちはどんどん、英語の能力が上がっていくと思います。

これからの子どもたちの成長が楽しみです。



# 英語教育が変わる!!

国際化に対応できる子どもたちに、グローバル社会が進展する中、国の動向と長洲町が先行して取り組む英語教育を紹介します。

## 幼児期における英語教育をスタート

平成28年4月、子どもたちの教室にとても背が高く、ガッチリとした体格の男の人が笑顔で「ハロー!!」とやって来ました。突然の訪問に小さな子どもたちは目を大きく見開いて驚き、中には泣き出す子も…。

長洲町の子どもたちに英語を教えるためにやってきたのは、アメリカ出身のフランク・モロネ先生。毎週、楽しく子どもたちに英語を教えています。

これは「長洲町幼児英語教育」として町が取り組む英語教育事業の一環で、町内にある5つのすべての幼稚園と保育所（園）を週1回巡回し、すべての園児を対象に各クラス10分から30分の授業を行っています。授業以外でもフランク先生と園児が一

緒にお昼を食べたり、園行事と一緒に参加したりと、園生活を通じた園児との交流も行われています。

今では「フランク先生」と駆け寄り、週1回の交流を楽しみにしている子どもたち。本物の英語に触れることで、大人顔負けのネイティブな発音が身についています。

このように、遊びや交流を通じた英語とのふれあいによって、幼児期における「人間関係」・「環境」・「言葉」・「表現」を養い、子どもたちが心身ともに豊かに成長することを目指しています。

## 国における英語教育の方向性

平成29年3月に改訂された国の学習指導要領では、平成32年度から小学5年生、6年生の外国語（英

語）を正式教科とし、小学3年生、4年生では、歌やゲームなどで英語に親しむ「外国語活動」がスタートすることとなりました。これは、東京オリンピック・パラリンピックに向け、児童生徒の英語による日本文化の発信、国際交流・ボランティア活動などの取り組みを強化することを目的としています。

## 小学校の英語教育を先行して実施

このように国における英語教育の方向性が示される中、町はいち早く幼児期における英語教育をスタートしましたが、幼稚園・保育所（園）で培われた英語力が小学校に入学すると3年生になるまで途切れしてしまうことは、子どもたちの英語教育にとって何よりの損失になります。

そこで、町では小学校での英語教育の先行実施に向け、平成28年12月に文部科学大臣から英語教育に関する教育課程特例校の指定を受けました。これにより、本年度から、町内の全小学校全学年で英語科を導入して、英語教育に取り組んでいきます。



▲小学校で英語を教えるソフィ先生

本年度の2月に、町全体でさらなる英語教育を推進するため、町と町内幼稚園・保育所（園）を運営する4法人、英語教育を実施する民間企業の6者による「長洲町の英語教育の推進に関する包括連携協定」を締結しました。

町では、これらの英語教育に関するさまざまな取り組みを実施していくことが、子どもたちへの平等な教育の提供を通じた「生きる力」の育成に寄与するものと考えます。

今後、グローバル社会の中で町の子どもたちが大きく飛躍していくことが期待されています。